



ゴミ箱には分別種類の看板を取り付け

グンゼ物流(小川茂浩社長、兵庫県西宮市)の西宮物流センター(同市)では、年間6026トン[※]は、プラスチック廃棄物の再資源化に組み、二酸化炭素(CO₂)排出量は6566平方メートル[※]のアパレル商品を取り扱い、量販店向けに月間平均600万枚以上を出荷する。

西宮市では22年にプラスチック類が一般廃棄物から産業廃棄物へ変更されたが、従来利用していた回収業者ではプラスチック廃棄物はリサイクルされず、焼却処分される。これにより、年間10トンのCO₂を排出し

グンゼ物流

プラスチック再資源化

CO₂回収費用 大幅な抑制に成功

てしまうため、再資源化をとるため、朝礼で分別方法を進めることにした。更に、回収処分費に年間231万円が掛かったり、プラスチックゴミは量が多く保管場所が足りない上、軽いため強風で飛ばされたりすることからためてからの回収ができないのも課題だった。

複数の回収業者に費用や回収頻度の見積もりを依頼。プラスチックを焼却ではなく再資源化可能で、費用負担が少なく、毎日回収してくれる点を評価して業者を選定した。

また、プラスチックは軟質、硬質などで分別が必要。また、ハンガーの廃棄削減やハンガーなし商品への切り替えを提案するなど、再生ペレットとして、プラスチックパレットなどに使

また、プラスチックは軟質、硬質などで分別が必要

資源循環型社会の実現に貢献する。(根来冬太)

場所も圧迫していた。しかし、回収業者に相談したところ、ハンガーは再資源化できることが判明。また、ハンガーの廃棄削減の取り組みを展開した後、他のセンターでも再資源化の取り組みを。今

これらの対策により、23年度目標の4685トン[※]を大幅に上回る再資源化を達成。回収費用は、年間36万円にまで抑制した。小川社長は「条件に合った回収業者を探すのは大変だが、コスト削減も環境へ